かけがえのない豊かなやんばるの森

奄美から沖縄にかけての島々は、大陸から離れて100万年以上経っていると考えられ、他の地域では絶滅してしまった珍しい生きものが取り残された地域です。沖縄島のなかでもシイ、カシなどの木々が多く残されたやんばるの森には、貴重な生きものがたくさん生息しています。

ヤンバルテナガコガネ

アカヒゲ

アマミヤマシギ

ヤンバルクイナ

リュウキュウハグロトンボ

クロイワトカゲモドキ

イボイモリ

リュウキュウヤマガメ

ホルストガエル

ナミエガエル

イシカワガエル

ハナサキガエル

肉食ほ乳類のいない生態系

これらの生きものたちはそれぞれにかかわり合いを持って、やんばる特有の生態系を形づくってきました。もともとやんばるにはマングースやネコのような肉食のほ乳類はいませんでした。そのため、やんばるの生きものはマングースのような肉食動物から身を守るすべを持っていません。

つれてこられたマングース

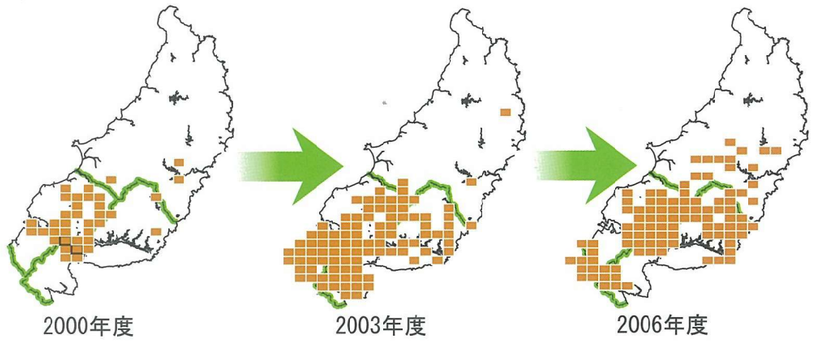
マングースは1910年に沖縄島に持ちこまれた外来種です。那覇市街地から次第に広がってきて、1990年代には50km以上も離れた大宜味村の塩屋湾を越えて、やんばるの森に侵入してきました。マングースは昆虫やトカゲなどの小さな生きものをたくさん食べますが、鳥の卵やヒナなども好んで食べます。現在では、沖縄島だけで約３万頭ものマングースが生息していると考えられています。

やんばるの生態系の危機

このままマングースが増えてやんばるの生きものたちが食べられ続けると、生態系のバランスはくずれ、やんばるの森らしさは失われてしまいます。やんばるの生きものたちを守り、生態系を復元させていくためにも、マングースやノネコといった外来種をやんばるから取りのぞく必要があります。

これまでのマングース対策

環境省、沖縄県等は、国頭・大宜味・東の３村で、マングースの捕獲を行っています。2000年度から2006年度（2007年３月末）までに、合計8,185頭のマングースを捕獲しました。同時に、マングースを効率的に捕獲するための研究も行っています。



マングースが捕獲された地域

マングース分布域の変化（分布域は次第に広がり、北部での捕獲が増えてきている）

捕獲したマングースの数

	捕獲数（頭）
2000年度	373
2001年度	399
2002年度	2,180
2003年度	2,110
2004年度	1,258
2005年度	956
2006年度	909
合計	8,185

中南部に高密度に分布するマングースがやんばるの森に侵入してくるのを防ぐため、沖縄県が中心となり、大宜味村塩屋から東村福地ダムにかけて、マングースの北上を防止するための柵（さく）を設置しました。この柵の設置により、特に貴重な生きものが多数生息している柵の北側で捕獲作業を重点的に行うことができるようになりました。

マングースの北上を防止するための柵

さらなる対策が必要です

これまでのマングースの捕獲がなかったら、やんばるの生態系は今以上に大きなダメージを受けていたことでしょう。しかし、残念ながら今のところ分布域の拡大は抑えられていません。今後も、道路沿いはもちろん林内にもワナを増やすなど、さらなる対策が必要です。マングース対策へのご理解とご協力をお願いいたします。